届け 世界の果てまでも

令和４年１２月１３日　Ｎｏ．５２　文責　校長　飯久保一男

自分で自分の背中を押す

職場で・地域で・ＰＴＡで…，様々な役割を決めることがあります。年齢や立場にもよるとは思いますが，内容に見合った報酬などがあれば，引き受けることもやぶさかではないと思いますが，無料奉仕であったり，本来の仕事に支障があったり，引き受けると苦労が予想できたりする内容の場合，誰も引き受け手がいなくて困るときがあります。

私の専門教科は図工・美術ですので，イラスト・垂れ幕や看板・Ｔシャツのデザインなどの依頼があります。学校を超えて依頼がくることもあります。加えて，この数年，中巨摩や市や地区の各種の会議・協議会の会長や事務局，取りまとめなどを引き受けてきました。輪番なので引き受けなければならないものもありましたし，逆らうことの許されない先輩から「はい or イエス」の返事しかできない状況で命じられるものもありましたが，そういった“しがらみ”のない中で，依頼されることがあります。

ご記憶でしょうか？
今年の運動会の教職員
ポロシャツのデザイン

依頼されたことを私は断らない主義です。自分の力が認められている，自分の力が必要とされていると考えるようにしています。厄介な仕事だったり，事前準備に時間がかかったりなど，面倒くさいことやプレッシャーを感じることのほうが多く，それが故に，夜遅くまで仕事をし，睡眠時間を削らなければならないこともあるのですが，自分が認められ，必要とされていると自分を奮い立たせます。どうせやるなら，愚痴など言わず，やる気をもって楽しんでやれたらいいと切り替えます。

そう簡単にはできないことのほうが多いものです。そこは，自分が成長するためのステップだと考えて取り組みます。人は，誰かから必要とされることに喜びを感じます。誰からも必要とされないとなったら，それはそれでとても寂しいことです。

各クラスに掲示してある「今年のめあて」の中に入れてある言葉です。

> やる気のあることば
> 「ぼくがやります」「私がやります」

子どもたちに

〇児童会・学年・クラスの役員などの役割に積極的に挑戦してほしい

〇様々な活動や作業に積極的に取り組んでほしい

〇頼まれたことなどを進んでやってほしい

という願いから入れた言葉です。教師が何かを頼んだときに，「はい，わかりました。やります！」と言ってやってくれたら，そりゃぁ，うれしいものです。

さて，クラスや学年や児童会などで，子どもたちが何らかの役割をもって取り組むこと・活動することにはどんな意味があるのでしょう。リーダーシップや主体性が身に付く，責任感が育つ，周りを見る力が身に付くなどのいろいろな力の成長が期待できます。

私は，裏面の理由以上に大切な意味があると思っています。締め切りが迫らないと仕事に取り掛からない私は，様々なことをなかなかやり出さない質（たち）です。切羽詰まらないと重い腰をあげません。

家では妻に急かされてしぶしぶやることも…。

しかし，役割を任されていると

〇自分は，このメンバーの中ではリーダーなのだから，自分から口火を切らなければ

〇責任者である自分が，最初に動き出さなければ

などと，**自分で自分の背中を押す**ことができるのです。何かの役になることで，何もしない自分よりも自分を一歩・二歩と自分で前進させられるのです。

その役を任されたことで，苦労することや嫌なこともあるのですが，それがやがて自分の糧となり，自分に返ってくるということならば，できるタイミングがあるとき，できるチャンスがあるときにやった方が得をすることは間違いありません。３学期には，様々な役に子どもたちの立候補があふれることを願っています。

今年度の校長通信 No.23「アンパンマンのマーチ」に掲載したやなせたかしさんの言葉を再掲します。

難しい仕事や未知の仕事には，好奇心と冒険心をそそられる。
新しいことに挑戦するのはすごいチャンスだと思う。
声をかけられたら，「できない」と断らずに，
無理やりでもやってしまえばいいんだ。　　やなせたかし

「恥ずかしいからやらない」のではなく
「恥をかいてもやってみる」ほうが
人生はおもしろいし，そこから得るものがある。　　やなせたかし

【小笠原区体育協会の体育委員長をやったことがあります】　ちょっと回りくどい，長い脱線になります。

小笠原区の体育協会の体育委員会は各町内会から１人ずつ選出された体育委員によって構成されます。私の住む下町町内会には町内会独自の体育部があり，各組で選出されたメンバーで構成されます。そのメンバーの中で体育部長を決めます。その体育部長が小笠原区の体育委員になります。私が何度目かの町内会の体育部のメンバーになったとき，体育部長をやってくれと頼まれました。断らない主義ですので，引き受けました。つまり，下町の体育部部長，兼，小笠原区体育協会の体育委員になったのです。小笠原区の体育委員の任期は２年です。その２年目は３分団（下町・下仲町・仲町・旭町）から体育委員長を出す輪番でした。３分団の体育委員の話し合いで，私に体育委員長をやってほしいという話になり，断らない主義ですので，引き受けました。

体協の委員長として，小笠原区の球技大会，グラウンドゴルフ大会，耐寒ラジオ体操や市の駅伝大会などの数々の体育行事を取り仕切り，審判の依頼や選手の取りまとめなどにかなりの時間を費やし，かなりの数の連絡を取りました。当時の携帯電話代がバカにならなかったことを覚えています。仕事が終わると電話ばかりしていました。並行して下町の体育行事も主催しました。

一番の問題は「小笠原区の運動会」でした。２年開催されていなかったのです。前々年は櫛形地区合同の体育祭が開催され，前年は雨で中止になっていました。任期が２年の体育委員ですので，区の運動会を経験した体育委員が誰もいない状況でした。競技内容を以前の体育委員長さんや体育指導員さんに教えてもらいに行きました。プログラムや賞状を発注し，校庭にトラックをかくこと，テントを立てること，前日の準備と当日の動きの確認などを取り仕切り，３年ぶりの区の運動会を主催しました。当日の放送や実況も担当しました。当時の体育委員から，教員が体育委員長をやってくれたおかげで運動会が実施できたとおだてられましたが…。　…現在コロナ禍のため，３年連続で小笠原区の運動会が中止され，似た状況です。私の心配など余計なお世話ですが。

大変な役を引き受けてしまったと愚痴を言いたくなりましたが，その当時の体育委員の方々とのつながりが，小笠原小の校長になった今，逆に当時の体育委員さん方から「飯久保さんが校長なら」と支援をいただくことにつながっています。